

視 察 調 査 報 告 書

<米軍基地関係特別委員会>

令和4年第3回沖縄県議会（6月定例会）

令和4年6月20日（月曜日）

沖 縄 県 議 会

米軍基地関係特別委員会視察調査報告書

視察調査日時

令和4年6月20日 月曜日（1日）

視察調査場所

嘉手納町

視察調査事項

軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立

- 1 米軍嘉手納飛行場に関する説明及び現場確認
- 2 嘉手納町議会との意見交換（米軍嘉手納飛行場から派生する諸問題について）

視察調査概要

別紙のとおり

参加委員（11人）

委員長	照屋守之君
副委員長	照屋大河君
委員	小渡良太郎君
〃	仲里全孝君
〃	又吉清義君
〃	山里将雄君
〃	瀬長美佐雄君
〃	比嘉瑞己君
〃	新垣光荣君
〃	仲村未央さん
〃	當間盛夫君

議会事務局（3人）

議会事務局政務調査課主幹	嘉陽孝
議会事務局政務調査課主査	池原利奈
議会事務局会計年度任用職員	幸地真美

別紙（視察調査概要）

1 現場視察：米軍嘉手納飛行場（道の駅かでな・展望台において説明）

・説明者：當山哲也嘉手納町基地渉外課長

嘉手納町の面積は15.12平方キロメートルで、そのうち軍用地が12.4平方キロメートルである。町域の約82%を基地が占めている。町民は残り約18%の2.7平方キロメートルで生活している。

嘉手納基地は陸軍所有施設と嘉手納弾薬庫地区及び嘉手納飛行場の3施設で構成されている。嘉手納町の海側に陸軍貯油施設があり、この施設はうるま市の天願栈橋から嘉手納基地、普天間基地まで送油管が延びており、嘉手納町、北谷町、沖縄市、うるま市及び宜野湾市の3市2町にまたがる施設となっている。嘉手納弾薬庫は、嘉手納町、読谷村、恩納村、沖縄市及びうるま市の5市町村にまたがり、施設面積は26.58平方キロメートルで、そのうち嘉手納町域は3.48平方キロメートルとなっている。なお、同施設は空軍、海軍、陸軍、海兵隊、在沖米4軍の全部の任務を支援している。嘉手納飛行場は、施設面積が19.86平方キロメートルで、そのうち嘉手納町域が8.79平方キロメートルとなっており、北谷町及び沖縄市と接している。

嘉手納飛行場の主な主要部隊として、第18航空団や在沖米海軍艦隊司令部の約100機程度が常駐しているが、この常駐機以外に岩国基地のFPA18ホーネット、横田基地のCV22オスプレイ、三沢基地のF16、ハワイ州のヒッカム空軍基地のF22と、世界中あらゆる場所から飛来して訓練しており、これらの航空機等から発せられる騒音と悪臭について、嘉手納町では様々なタイミングで関連機関に抗議・要請を行っている状況である。

（主な質疑応答）

Q この道の駅かでなはリニューアルされたが、この施設の目的、財源はどうなっているか。

A 担当が産業観光部門になるが、目的としては観光に資するということで考えていると思う。予算は内閣府の一括交付金を使って4月にオープンした。

Q 県知事はこの現場を視察したか。

A ここではないが、沖縄防衛局の隣のロータリープラザで、知事と副知事に嘉手納基地の状況—特にこのパループについてレクチャーをした。

2 嘉手納町議会との意見交換（嘉手納町議会第2委員会室）

（1） 當山宏嘉手納町長挨拶

本日は、沖縄県議会米軍基地関係特別委員会の照屋守之委員長をはじめ、各委員の皆様には大変お忙しい中、嘉手納町まで足を運んでいただき心から歓迎する。また、日頃は沖縄県の基地問題の解決に向けて御尽力をいただいていることに対して深く敬意を表する。

嘉手納町は総面積の82%が嘉手納飛行場、そして弾薬庫地区で占められている。滑走路が住民地域に近く、日常的に町民は基地被害に悩まされているという状況にある。日米で締結された騒音防止協定があるが、依然として昼夜にわたって騒音は発生している。町としては一貫して騒音防止協定の厳格運用を強くこれまでも訴えてきているところであるが、それが改善されない状況が続いている。さらに、大型機の駐機場が住民地域に近接していることで、そのことによるエンジン調整の際に発生する排気ガスの悪臭が大きな問題となってきている。その原因を町独自で調査した結果、E3早期警戒管制機2機が市街地近くの駐機場に常駐していることで、それが主な原因であるということが分かってきた。

この2機を何とかしてほしいということで、これまで米軍側、そして日米の関係機関に要請を行ってきており、問題を認識してもらってはいるが、まだその改善には至っていない。

そして、ここ数年また問題になってきたのが、パパーループという場所から新たな騒音の発生である。第353特殊作戦軍の駐機場の拡張工事に伴って、一時的にそのパパーループという住民地域から一番近いところで整備をして、特殊作戦機をそこに駐機する旨米軍側から説明があった。期間的には2か年間ということであったが、既に2年が経過して、駐機場自体は完成をしているが、駐機場に関連する格納庫が、予算がつかずに未整備であるということで、引き続きパパーループを継続使用している。我々としては早期に予算を確保して早めに移設をするよう申し入れを強く行っているところである。

ただ、予算がついたとしても、整備には相当の期間を要するので、その間のパパーループからの騒音をどうするのかという問題が残る。これについては、米軍側としては、駐機場の工事が始まる以前の状態に近づけるように努力をして、騒音が発生しないように最大限の措置を講じるということで説明を受けている。ただ、その説明を受けて1年以上たつが、相変わらず騒音が発生しているという状況があり、問題はまだ残されたままである。今申し上げた件が、喫緊に解決すべき嘉手納町の基地問題である。

最後に今回の視察調査が実りあるものとなるよう祈念する。

(2) 仲村渠兼栄嘉手納町議会議長挨拶

嘉手納町議会基地対策委員会が、県議会の軍特委と意見交換ができることを照屋委員長はじめ委員の皆さんに感謝申し上げます。

沖縄県41市町村で基地に関係する委員会または特別委員会が設置されているのは、沖縄市、宜野湾市、浦添市、那覇市、うるま市、嘉手納町、北谷町、読谷村、金武町、宜野座村及び国頭村の合計11市町村しかない。基地問題は立場がいろいろあるかと思うが、これは一緒になって取り組む課題である。

今日は11市町村で私たち嘉手納町議会が代表として県議会軍特委との意見交換をしたということに糧に、これからの活動等々もより一層、レベルの高い委員会、要請行動等々を行っていきたい。

(3) 照屋守之県議会米軍基地関係特別委員長挨拶

以前から嘉手納町議会から陳情が県議会に提出されて、軍特委でその審査を行っているところであるが、嘉手納町に直接出向いて、現状をお伺いして、あるいは議会の皆さん方との意見交換が必要だということで、対応していただき、感謝申し上げます。

嘉手納町については、基地問題、騒音等様々な問題を抱えていて、なかなか解決できていないこの現状を確認させていただいて、執行機関である県の対応も含めて考えていかないと、なかなか問題の解決にはつながっていかないと感じている。

今回、現状あるいはその他の問題点も含めて、私どもと意見交換をさせていただいて、それを議会に持ち帰って、執行部の対応を見て、お役に立てるよう取組をさせていただきたいと思っている。

(4) 當山均嘉手納町議会基地対策特別委員長による概要説明

主な基地関係決議第19期と書いてあるファイルと資料一覧という資料を基に説明を行う。

8本の決議書を資料として提供しているが、ポイントを絞って説明する。

令和4年6月13日の第13回定例会において、外来機の退去、飛来に厳重に抗議する決議を全会一致で可決した。

状況としては、短期間に複数部隊、3機種の外來機が大挙飛来しており、嘉手納基地は異常な状況にある。この状況を踏まえ、被害実態としてパ

ループ地区付近からエンジン調整音が昼夜を問わず鳴り響き、町中に排気ガスの悪臭を漂わせるとともに、戦闘機が轟音を立てて離発着及び飛行訓練を繰り返し、平穏な日常生活に大きな悪影響を及ぼしている。このエンジン調整音、いわゆる地上騒音及び排気ガスの悪臭は、本町特有の基地被害であることをまず御理解いただきたい。

次に、2月9日の第11回臨時会において、嘉手納基地における米軍機の騒音激化に抗議する決議である。資料③6ページは、平成29年度の騒音発生回数、外来機の飛来及び訓練移転の状況を1枚の紙にまとめた資料である。4月20日から5月8日までの約3週間、グアムへ嘉手納基地から訓練移転が実施されている。7月7日から7月14日までの約1週間、三沢基地へ訓練移転、翌年の2月4日から3月6日までの約1か月間、グアムへ訓練移転が実施されているが、その間も嘉手納基地に外来機が飛来している。

5月4日から8月11日までの約3か月間にF16戦闘機12機が嘉手納に飛来し、そのまま移駐。また、5月31日から7月6日までの約1か月と1週間にU2偵察機が4機嘉手納に飛来し、移駐。10月31日から5月5日までの約半年間にF35A戦闘機12機が嘉手納にそのまま移駐している。訓練移転期間中に外来機が相次いで飛来し、騒音を増大させている実態を踏まえて、本町議会においては、嘉手納飛行場からの訓練移転期間及び参加規模をより一層確実にすることを求めている。

次に、9月7日の第7回定例会における嘉手納基地からの騒音及び各種被害の増大に抗議する決議である。この決議では、特に悪臭に関して説明をしたい。

8月12日には、「ここ1週間爆音もひどいが、排気ガスの臭いもすさまじい。」「ガス臭くて窓も明けられない。鼻と頭が痛い」など、騒音や悪臭に対する苦情が本町に寄せられている。

次に、7月15日の第5回臨時会における嘉手納基地における夜間、深夜、早朝の騒音激化に抗議する決議である。

「6月14日から7月4日までの3週間において、夜間、深夜、早朝に騒音が5回以上発生した日は、嘉手納町役場測定局では7日間、最も多い日は6月23日の9回、ロータリープラザ測定局は、12日間、同6月25日は16回、東区コミュニティーセンター測定局で5日間、同6月25日、7月4日の7回であったことが明らかになった。」このように、住民居住地に近接しているパループ地区及び大型駐機場付近から騒音が発生していると推測される。

深夜、早朝というのは、午前0時0分から朝の5時59分の時間帯。夜と

いうのは、22時0分から23時59分の時間帯を指している。この資料の6月25日、ロータリープラザ測定局では、深夜、早朝、夜の時間帯に16回もの70デシベル以上が3秒続く騒音が発生した。8時間のうちに16回なので、30分に1回はこの騒音が発生したことになる。30分に1回騒音が発生したことは、町民の平穏な日常生活に悪影響を及ぼしており、本町議会は決議を上げた。

次に、5月17日の第3回臨時会におけるパパループの継続使用に嚴重に抗議し、使用禁止を求める決議である。

令和3年7月28日、米軍は嘉手納基地内にある第353特殊作戦軍の駐機場が完成したことを発表した。同駐機場近くに建設予定の整備格納庫は米軍予算不足により未着工であり、この格納庫が完成するまでの間、住民居住地に極めて近接している通称パパループ地区を継続して使用することが明らかになった。このような状況を踏まえて、本町議会は第353特殊作戦軍の駐機場近くに建設予定の整備格納庫の完成に向け、日米両政府においては、英知を結集し対策を講ずることを強く求めているが、残念ながら先ほど町長からあったように、まだ道筋が見えない状況である。

現実的な問題として、我々も一日も早く第353特殊作戦航空団の整備格納庫の早期完成に向けて、日米両政府が連携し早急に対策を講じることを求めている。ぜひ県議会の皆様方からも、日米両政府に対して力強いプッシュ、御支援をお願いしたい。

(主な質疑応答)

Q 騒音測定局が4つあるが、それぞれの測定局の特徴があれば教えていただきたい。

A 嘉手納町役場測定局、東コミュニティー測定局、兼久体育館測定局の3つは普通の騒音測定だが、ロータリープラザに設置している測定局は、ちょうど約1年前に、パパループの音を測るためだけに新設をして、この集音器の向きもパパループに向いている。パパループの騒音は、一番ロータリープラザ測定局で回数が把握できるという特徴がある。

Q 今、PFOS等が問題になって、健康被害を血中濃度で測るとか、大学がそういったものをやっている。嘉手納の騒音に関して、健康被害などの実態を示して、日米両政府に迫っていくというやり方がないかと思うが、町議会のほうで何か議論があるか。

A 20年前に沖縄県が嘉手納基地及び普天間飛行場周辺の健康影響度調査を行

った報告書がある。今我々は第19期だが、18期のときに德里前議長とともに、嘉手納飛行場において、再度健康影響度調査を実施するよう、非公式に当時の副知事等を通じて要請をしたが、なかなか県は重い腰を上げてくれない。

Q 特にこの健康影響のほうで、素人的に思うのはこの難聴だったりとか、あるいは血圧への影響が出るのかなと思うが、嘉手納町でよく聞こえてくる住民の声はあるか。

A 20年前の県の調査によると、嘉手納町は低体重児の出生率が高いという報告があった。

Q 嘉手納におけるPFOS、PFOA等の環境汚染の状況はどうなっているか。

A 嘉手納町議会は、前第18期から、このPFOSの問題も含めて環境対策調査特別委員会を別に設けてある。嘉手納町では川とか使っていない井戸からPFOS等が検出されているが、飲み水は石川浄水場を通じて町民に提供しているので、実際にPFOSに汚染されている水を水道水として町は提供していない。嘉手納基地が発生源という可能性が高いとは思いますが、その理由を今探しつつ、その対策をどのようにして沖縄県等に、基地に立ち入っていただいて調査をしてどのような対策を打ってもらうかについては、決議を上げつつ、今取り組んでいるところである。

Q 今パパループに駐機している機種が兼久側に移転したら、この悪臭とか騒音被害は減るか。その影響を受けている住民が変わるだけではないか。

A 兼久側は、現在のパパループ地区よりは、住民居住地とは距離がある。確かに悪臭・騒音の問題はゼロになることはないが、相対的には大分影響は減るのではないかと考えている。

Q E3哨戒機が悪臭の原因ではないかとの説明があるが、これは、燃料が特別なのか。悪臭の原因になる理由は何か。

A エンジンが4基ついているが、エンジンが古い。要するに、不完全燃焼状態でエンジン調整をしているんじゃないかということである。

Q 平成31年2月27日、28日の要請行動で、7項目を要請したうち、嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練が中止された。そのほかの項目について、国はどう言っていたのか、回答があったのか。

A 地域住民の苦勞に対して、政府としてもぜひ負担軽減に向けて、なお一層取り組むとどの省庁でも言っていた。また県選出国會議員の方々、各政党、みんなから同じ言葉をいただいたが、なかなか壁が高いんだろうと思っている。

(5) 照屋大河県議会米軍基地関係特別副委員長挨拶

今日は仲村渠議長それから當山委員長をはじめ、基地対策特別委員会の皆さん、県議会の軍特委員会との意見交換の場をいただき、心より感謝を申し上げます。

改めていただいた重点項目、皆さんが直接政府に要請された項目、しっかり心に留めて、私たちも町民が実感できる負担軽減、その成果につながるように、一緒になって努力を重ねていきたい。

少しでも町民の皆さんが安心して暮らせる、安心して眠れるような日常の実現に、一緒になって努力をしていくことを約束して、改めて今日の機会をいただいたことに感謝を申し上げます。